

9月7日に開催された「第3回 ダイバーショナルセラピー(略称DT)実践発表全国大会」に際し、ニュージーランド・ダイバーショナル&レクリエーションなるセラピー協会(NZSDRT)のオルキエヒア会長から、ビデオメッセージが寄せられました。また8月にNZの全国大会に参加した芹澤にオルキエヒアさんから発表者全員への記念品が託され、当日「最優秀賞」「優秀賞」として送られました。オルキエヒアさんへの感謝を込めて、メッセージの要訳を掲載します。

第3回「DT 実践発表全国大会」に寄せて

New Zealand Society of Diversional and Recreational Therapists Inc.

President : Orquidea Tamayo Mortera

(ニュージーランドDRT協会 オルキエヒア・モルテラ・タマヨ会長)

ハイ！ キアオラ(マオリ語で「こんにちは」)。こんにちは。皆さんお元気ですか？日本の皆様とお話する機会をいただき、ありがとうございます。Takako さんとの友情と、彼女の日本の人々の生活の質を高めようとされる情熱に感謝します。

過去4年の間、日本ではコロナ感染防止のためにレクリエーション活動が中断されていたと聞き、悲しく思いました。なぜなら、レクリエーション活動こそが、人々を意味のある生活にとどめておくものだからです。ここで少しニュージーランドの話をしたと思います。



1980年代、Tea Lady (ティーレディー) という役割の女性たちがいて、介護施設などで高齢者のためにボランティアとしてティータイムのサービスをしていました。そこで彼女たちは入居者たちが社会から切り離されて退屈していることに気づいたのです。彼女たちは、一杯の紅茶で一体感 (inclusion) を高めることができると考えました。一杯の紅茶はもてなしの心を表すだけでなく、人と人のつながりを提供することができます。誰かとつながるといことは、その人の生活に意味を与え、目的を与えることになり、それにより人々は困難を乗り越えられるようになる…と気づいたティーレディーたちは、やがてその専門性を高め、ダイバーショナルセラピストという職業につながりました。

DTワーカーの皆さんにお伝えしたいのは、皆さんは日本で素晴らしい働きをしておられるということです。私は2015年に日本を訪問してDTワーカーの方々とお会いし、介護施設も訪問しましたが、皆さんの文化は素晴らしいものでした。

コロナ感染を防ぎたいのは分かりますが、しかし「すべての人々にはレクリエーション活動へアクセスする権利がある」ことを提唱するのは、我々の責任であると思います。レクリエーション活動は個人に特化したものであり、人生にそして人々のよい関係性にも意味を与えるものです。その変化を起こすことができることを私たちは提唱し続けるのです。

DTワーカーの皆さんが、どうすれば日本のすべての人々が幸せになれるかを考えてくださっていることに感謝します。平和を生み出し、ストーリーを語り、高齢者が前向きでいられるようにしてくださることに、NZより心から敬意を表します。

ありがとうございます。